

地質標本館 第5回地質写真コンテスト 結果について (1)

宮内 渉¹⁾・青木正博¹⁾

第5回地質写真コンテスト(2009年3月開催)において受賞されました作品は、応募作品109点の中から選出されたグランプリ作品1点、入選作品7点、入館者賞作品5点、奨励賞作品4点です。今回はグランプリ作品と入選作品3点をご紹介します。作品は口絵97-98頁に掲

載しました。写真の説明等については第1表のとおりです。なお、他の受賞作品については今後順次ご紹介する予定です。また、地質写真コンテストの概要については、本誌2012年5月号で報告しておりますので合わせてご覧ください。

MIYAUCHI Wataru and AOKI Masahiro (2013) Result report of the 5th Geological Photograph Contest (1).

(受付:2013年2月22日)

第1表 第5回地質写真コンテスト受賞作品一覧(1).

	氏名	題名	テーマ・ カテゴリー	撮影場所	撮影年月日	カメラ名	フィルム名・ 画素数	写真の説明
グランプリ	古川 竜太	フォッサマグナで最も険しい溪谷の調査	組写真 (調査風景)	新潟県糸魚川市海川支流不動川	2007年8月	ニコンF3/T, AiNikkor24mm f2S	プロビア 100F	フォッサマグナ北端に位置する海川不動川は標高1000mに満たないものの、鮮新世の水中火山岩が作る険しいゴルジュは、これまで地質学者の侵入を拒んできた。都合3回にわたる予察調査と、2回の雨による延期を経て、下流・上流をあわせて4日間の調査によって不動川の地質は完全に解明された。調査はほとんど泳ぎと滝の登攀に費やされ、特にゴルジュ核心部では、滝に打たれながらボルトを打ち込むという修行さながらの登攀によって突破された。調査結果は現在作成中の5万分の1小滝図幅に反映される予定である。
入選	中谷 まさあき 公昭	黄銅鉱	地質標本	地質標本館		Nikon D300 +60mmマク ロレンズ		ベバーミント色の部分は銅の緑青でしょうか。緑色のところや赤紫のところは絵の具が垂れたみたいになっていました。表面の模様が地形図のようにも見えました。写真に撮るとそれが一層はっきりと見えました。立体的な地形図のようで、山脈みたいに見えるところがあったり、白いスジは川のように見えます。月のクレーターのように見えるところもあります。ジュニア講座受講生のSさんから拝借して撮影しました。産地は不詳です。左右長約13cm。
入選	深澤 拓馬 かりん 夏鈴	紫水晶	地質標本	地質標本館		オリンパス E300+50mm マクロレンズ		地質標本館の登録標本(GSJ M35147)を借りて撮影しました。ポリビア産です。結晶末端の濃い紫と、根本の白の色のコントラストがうまく撮れたと思います。左右長が15cm。
入選	畠山 真紀 代理エントリ-: 住田 達哉	岩手山精密 重力探査風景	組写真 (調査風景)	岩手山東斜面	2008年9月2日	Canon IXYdigital910 IS	3264x2448	(a)まるで調査隊の覚悟を試すかのような、大きな存在です。その日の調査域は、刈屋スコリアと呼ばれる1686年(江戸時代)に噴火したときの噴出物上です。急斜面のため、より上方からの巨大な落石も多いことがわかります。調査中も自らの転がした石で事故が無いよう細心の注意が必要になります。 (b)スコリア上は、非常に歩きにくいために、一番先頭の者が歩いた跡を後続が足場として利用します。したがって、どうしても残ってしまう足跡なのですが、火山体の密度構造という重要な知見を得るため必要最小限の環境破壊をどうかご容赦ください。 (c)関係省庁からの許可をもらったの岩手山における重力測定風景。ヘルメット、登山靴、スバツツ、背負子、ザック等ほぼフル装備で臨みます。若い方達は、荷物運搬委員の岩手大学のワングル部学生です。白色のBOXが、ラコスト重力計。三脚の装置は位置測定のためのGPS受信機。 (d)眼下に雲海を見る山岳における調査は、まさに天空の城を旅するようです。しかし、歩いている最中は、歩きにくいスコリア上を急傾斜でバランスを崩したり、高山植物を過度に傷つけないよう、細心の注意を払いながらの気の抜けない時間となります。

1) 産総研 地質標本館